

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 4 月 28 日

【事業所概要【事業所記入】】

| | | | |
|---------|-------------------|--------------|----------------|
| 事業所番号 | 3491100016 | | |
| 法人名 | 有限会社オリーブハウス | | |
| 事業所名 | オリーブハウス因島 | | |
| 所在地 | 広島県尾道市因島田熊町4866-1 | | |
| | 電話番号 | 0845-26-6022 | |
| 自己評価作成日 | 令和3年 9月 23日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 4 年 5 月 2 日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 みらい |
| 所在地 | 広島県福山市山手町1020番地3 |
| 訪問調査日 | 令和 4 年 4 月 14 日 |

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>コロナ禍で地域のイベントはほぼなくなり交流は減少したが、入居者一人一人の「したい事」を可能な限り実現を目指し、麻雀が趣味の入居者さんの為に地域の方にお誘いメッセをそろえ麻雀を行ったり、ご家族の葬儀の段取りが出来ず後悔されている入居者さんの為に元お坊さんをお招きして模擬葬儀をおこなったり、旅行を感じて頂こうとオンラインツアー(伊勢神宮)を行っている。また、遠方でコロナ禍もありなかなかお会いできないご家族の為にテレビ電話を行ったり、スタッフが連れてくる犬との触れ合ったり、産休中のスタッフ子供連れで遊びに来て触れ合ったり、退職したスタッフも気軽に遊びに来て触れ合ったりと、触れ合いを大切にしている。又、季節を味わって頂く為に感染に気を付けながらも初詣、花見等を行ったり、事業所でいちご狩りが出来るよう洗濯物干しを活用して行ったりしている。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>少し高台のオシャレな民家を改造した建物で昔の懐かしさが感じられ、お庭に出れば瀬戸内海の広く静かな海を見る事ができ、穏やかに過ごせる環境である。職員同士仲が良くお互いに助け合い利用者一人ひとりの生活リズムに合わせた支援をされ、寄り添い個々の思いを大切に、できる事は最大限、叶えてあげると言うスタンスで全職員が一丸となり取り組まれている。又、地域密着型サービスの意義を認識し、利用者の孤独感を感じさせず、馴染みの場所で地域の方々と共に自分らしく生活して頂く事を大切にされている。コロナ感染予防の為、今までの様には家族とお会いする事は出来ないが、ラインやテレビ電話等でお互いに顔を見ながらお話してもらおう等、家族との絆が途切れないよう支援されている。外出支援も以前の様には出来ない為、室内行事を多く取り入れ、楽しく、大切な一日となる様務めている。医療に関しても協力医療機関や歯科医等の連携が構築され、通院支援も事業所が全面的に行い、適切な医療が受けられている。食事面も食材も多く、栄養バランスにも配慮され、旬の食材を取り入れ、季節感を味わってもらっている。職員と顔馴染みの利用者も多く、家庭的で明るく、大家族の様に御互いに支え合い、職員の笑顔と優しさが感じられ、グループホームの見本となる事業所となっている。</p> |
|--|

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「BS法」によりスタッフ全員で作成した目標の中から「入居者」「スタッフ」「地域」「健康」「環境」の5項目に分け、理念を作成している。 | 職員間で考えられた理念を玄関正面に掲げられ、理念は実践する物であることを念頭に、一人ひとりの状態を把握し常に利用者本位のケア実践に繋げている。又、利用者の感情を大事に地域と共生しながら五項目の目標に向かい日々実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍により地域イベントは減少し交流も難しくなったが、近隣への買い物や散歩での挨拶を通し、可能な限り繋がりを継続している。また、続けているものとして広報誌を月に一度回覧板で回し、広く情報提供している事に加え、地域からのご意見を頂くための記入用紙も回覧板で回らせて頂いている。 | コロナ禍の為、地域行事は中止となり、交流は出来ないが、散歩や買い物に行かれた際、出会えば挨拶をし、以前の様な交流が継続出来る様務めると共に毎月、事業所の広報誌を地域に回覧し、現状把握してもらい理解と繋がりが継続出来る様取り組まれている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々の入居相談を中心に、地域の福祉ニーズ把握に努めている。また、介護相談所「街かど相談室」を設置し、入居相談以外の介護相談にも応じている。また、地区や学校、警察などで認知症についての講演を行い、理解を広げている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は年に6回、地域包括支援センターの職員や区長、班長など地域住民の方々、ボランティア団体やご家族などが参加し、行っている。現在は集合することが難しく、資料をお渡ししている | 会議が出来ない為、委員の方へ定期的に書面にて現状や取り組み等を報告し、その中で意見の把握に努めている。又、コロナ対策についての行政からの情報も併せて伝えている。報告の中での意見等についてはサービスに活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者や地域包括支援センターの職員に事業所及び地域の実情や取り組みを伝え、その解決方法に関する相談などを行っている。また、認知症サポーター養成講座の講師として社会福祉協議会と連携をとりながら地域への認知症への理解に取り組んでいる。 | 事業所の取り組みを伝えたり、コロナ対策情報を得たりする中で現状について相談し、情報や助言等が得られ、協力関係を築く様務めている。地域包括とも、現状や地域の実情を含め話し合い協力関係は築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体的拘束等の適正化の為の指針を設け、研修及び委員会での話し合いを実施。玄関の施錠など環境、身体面はもちろん、睡眠薬や安定剤などの薬による抑制も「拘束」と考えられない事に加え、認知症状においてその行為が何故起きるかを、「その人」という視点から捉え、その理由の把握に努めていくことで拘束をしないケアを実現している。また、法律上「拘束」と捉えられない時も、拘束を「意図」とするも全ては拘束であると捉え、行わないという意識を持ち、徹底している。また、要因として考えられるのは、①過剰な安全管理②介護者のスケジュールに強引に合わせさせる行為。さらに、①②を取り巻くスタッフ同士の人間関係や対外関係によるものが多い。「人は思い通りにほならない」という事を胸に、私たちはあくまで「入居者さんの生活を支える」事を前押しにゆとりを持って、相手に合わせた介護を行っている。 | 基本拘束はしない。リスクに対しては話し合いを密に行い、工夫をし拘束はしないケアを実践している。本人との関係性を大事にされ、相手に合わせた介護を行い、見守りを徹底し、抑圧しない支援に努めている。研修も行い全職員正しく理解されている | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の中に潜む背景や状況を理解するために、外部研修や高齢者虐待防止教育システムを活用し周知徹底している。また、「コーチング」等、スタッフの能力を引き出す指導方法によりスタッフのモチベーションを上げる工夫を行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度について、その必要性がある入居者様とご家族への説明に関し、包括支援センターにも相談し資料を取り寄せ、職員に周知徹底すると共に関係者と話し合っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に十分な説明を行い、理解、納得を図るのはもちろん、入居後も随時ご相談に応じている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見や不満、苦情があった時にはすぐ職員で話し合いを設け、対応している。又、意見や不満、苦情とその対応を記入したものを玄関に貼り、外部者に表すると共に運営に反映させている。 | 現状を見ながら訪問はしてもらい、その際、現状を伝え意見を聞くと共に定期的な日頃の様子と写真付きの便りを送付し、その中でも意見や要望の把握に努め運営に反映させている。気軽に何でも言ってもらえる関係が築かれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回会議を開催している。会議はスタッフが「主」となる事を徹底し、会議で決まったものは即実行している。又、スタッフに随時、面談や文書での意見を聞いている。 | 日常的な会話を大切にしその中から職員の思いや提案等が出る。また、月1回の会議や研修でも多くの意見が出る。信頼関係が構築されている為、職員は気軽に意見や提案を伝えられる。色々な場面での意見等は検討し運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | イベントや入居者さんそれぞれのケースに担当を設けて行う事で達成感がわき、やりがいに繋がっている。また、スタッフの子供も一緒に出勤でき、子供に働く姿が見せられることによって、さらなるやりがいに繋げる事が出来る。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | スタッフがケアを行う上で悩んでいることを把握し、それを解決出来るようなZOOM等による外部研修を探して参加したり、内部研修を行ったりしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在因島・瀬戸田・弓削の介護関係者により地域のニーズの迅速な把握や介護の情報交換等を目的とした「シーポート」を結成。現在コロナ禍で交流は行えていないが、連絡など行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談から利用に至るまでに、本人と面談し、話をお聞きすると共に、グループホームにも遊びに来て頂き、環境を把握して頂く事で不安を取り除きつつ、要望をお聞きしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談から利用に至るまで、家族の方々と面談し、連絡を取り合い、不安なこと等をお聞きしている。また、待機の方が多く、すぐに入居出来ない事が多いので、入居できるまでの間の介護相談、在宅介護方法や情報提供など行い、状況によっては自宅に訪問し、状態を把握し、対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時の緊急性に応じ、他のサービス利用の情報提供や先方への連絡といった支援などを積極的に行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事作り、掃除、洗濯物干しなど役割を持ち、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。また、入居者の方々だけでなく、職員の誕生日会を開いて入居者の方々とお祝いするといった、同じ家族として一方的にならないように対応している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族も入居者さんを支えるチームの一員として、お互いに相談し合う事で関係を築いている。また、必要に応じてケアプランの中にご家族の役割を相談の元に設けたり、夫婦二人暮らしの方は片方を預けられると張っていた気が抜けてしまう事があるので、時折家に帰られたり、施設に来て頂いたりしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍ではありますが、可能な限り来客を受け入れたり、馴染みの場所への外出を行ったりと支援に努めている。また、LINEのテレビ電話等を活用し、遠方からも顔の見えたコミュニケーションを行っている。 | 感染予防を徹底し、馴染みの神社へ初詣に行かれたり、自宅近くまでドライブする等、また、近隣の方の場合は自宅周りを散歩したり、遠方の方にはラインやテレビ電話で家族とお話してもらおう等、家族との繋がりを大切にしたい支援に努められている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者さん同士がお互いに関心が持てるようなコミュニケーションをスタッフが随時意識して行っており、理念にも挙げられている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても気軽に遊びに来て頂いている。また、退居後の様々な介護相談に応じている。又、入院退居された方のお見舞いに伺っている。又、亡くなられた際は葬式に慰問させて頂いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の意見や要望をそれとなくお聞きすると共に、行動や仕草から行動を探り、生活記録に記録している。また、家族より聞き取りを行っている。一例として、認知症の為奥様の葬儀が出来なかった方の為に「模擬葬儀」を行った。 | 日々の何気ない会話や表情、仕草等から把握し、全職員に周知し、可能な限り、想いに沿う様務めている。図書館に行きたい、ドライブ、食べ物等の思いが多く出る。困難な方には寄り添い、問いかけ、その時の表情から検討している。家族の協力を得る事もある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居相談のときからこまめに情報をお聞きして以前から生活歴を把握し、入居後のケアに生かしている。その事により待機の状態でも随時の介護相談に対応することが出来る。又、入居後は家族会時に家族から聞き取ったり、来訪時に随時聞き取ったりしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活記録用紙や日誌などにその日一日の過ごし方やリズム、心身状態などを記録し、把握に努めている。また、日頃よりスタッフ同士で情報交換している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当職員は入居者さんやご家族と話し合い、他の職員の意見を取り入れ、計画作成者と共に介護計画を作成している。また、作成された介護計画は職員間で共有し、家族に説明し、理解を得ている。 | 家族、本人の希望、主治医の所見、日常生活記録からニーズや課題について職員の意見等を基に担当者会議で検討し、柔軟且つ現状に即した計画を作成し家族の承諾も得ている。見直しやモニタリングは3ヶ月となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活記録に記録し、いつでも内容が確認できるようにしていると共に、入居者さんとのコミュニケーションや仕草などによるちょっとした気付きをホワイトボードに記入し、職員全体で情報共有しながら実践や介護計画の見直しにも活かされている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者さんの通院の支援はもとより、空き部屋がある場合はショートステイの利用を出来るように、グループホームの多機能を活かしている。また、コロナ禍でなかなか面会に来られないご家族の為にLINE等のテレビ電話を活用し顔を見てお話し出来るよう行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在コロナ禍により困難な好況が続いているが、中でも様々なお出掛け等の触れ合いを通して豊かな暮らしを保てるよう工夫している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望を受け、かかりつけ医の受診支援を行っている。また、内科や外科だけでなく、必要に応じ歯科、眼科、皮膚科、整形外科、リハビリテーション科などの受診支援も行っている。現在コロナ禍によりスタッフが代理で受診・報告を行っている。 | 協力医療機関の往診が月1回ある。訪問歯科支援もある。他科やかかりつけ医の受診はすべて事業所が行っている。受診の際は、家族に連絡し、通院支援している。結果についても報告し共有している。医療機関との連携も築かれ、適切な医療を受けられる様務めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員の看護師はもちろん、協力医療機関の看護師や、利用者を良く知る看護師と相談しながら日常の健康管理などの支援を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療ソーシャルワーカーと入院月から連携をとっている。また、退院時には退院カンファレンスに参加し、事業所へ帰られてからの対応などを小まめにお聞きしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時より通常及び終末期の医療、看護、介護に関する方針を本人や家族等と話し合っ互いに同意している。また、入居時に重度化した時の対応と看取りに関する事業所としての指針を伝えている。 | 利用開始時、指針を基に説明し、理解が得られているが重度化した場合には主治医、看護師等三者で密に話し合い、その都度家族に意思確認をしながら、家族の思いに沿い、方針を共有し、主治医や看護師との連携を密に取りながら、チームで支援に取り組まれている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時に対応処置が出来る、緊急時マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回消防計画を立て、消火訓練及び避難訓練を実施している。又、消防署員の方に立ち会って頂いたり、地域の方に広くお願いし、避難訓練にご協力頂いている。又、地域の防災訓練にも参加している。又、水害、土砂災害対策の為市の担当の方にお越し頂き、勉強会を行っている。 | 年2回、夜間、日中を想定し、火災、避難誘導、また、あらゆる災害(水害、土砂災害)についても訓練され、個々の実戦力を身に付け、慌てず速やかに対応できる様務めている。訓練内容は書面にて運営推進会議委員に報告すると共に協力の依頼もしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 管理者や職員は入居者を尊重し信頼関係を築いている。プライバシーを損ねるような対応をしていない。記録などの取り扱いも適切に行っている。 | 人生の先輩であると言う事を常に念頭に置き、その人の人格を尊重した声かけや対応をするよう周知している。職員間でも気付いた時には注意し合い、馴れ合いになっても節度ある対応をするよう心掛け、プライバシーを損ねないよう日々取り組まれている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや意見をその人に合わせたペースで傾聴したり、表情から読み取っていくことで把握に努めている。又、常に職員側で決めるのではなく入居者にお伺いする事で自己決定の支援を行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者さん一人ひとりの生活リズムを記録にとり、そのペースに合わせた支援を行っている。「スケジュールは作らず、あくまで「入居者さんの生活」を支援する。なので深夜まで起きられる方もいれば昼過ぎまで寝られる方もいる。よって食事の時間帯が分かれることも多い。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容を本人の希望、家族の要望にあわせ対応している。又、化粧教室等を活用し、化粧等おしゃれを楽しんで頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝の広告や料理の本を一緒に見て、毎回入居者さんと買い物・調理等、常に入居者さんと一緒に作って頂いている。介護度が重くなってもご本人の出来る事を探り、お茶汲みや盛り付け、味見などをお願いしている。 | 食事準備や盛り付け等、職員と共にしている。出来る事は声かけし、力量発揮の場面作りをし、張りのある生活に繋げている。職員も一緒に食されている。旬の食材でその時期の季節感を味わってもらおうと共に栄養バランスにも配慮され食をそる盛り付けとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | その人に合わせた食事量を把握し、提供している。又、食事やおやつ、起床時や入浴後などの定期的な水分摂取はもちろん、その他でも水分チェックシートによる水分量を確認しながら摂取を薦め、最低でも1日1200ccの摂取を実現している。また、無理に摂取して頂くのではなく、好みを把握したり、タイミングよく随時飲み物をお出ししたりと、工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯科医の指導の下、毎食後には必ず口腔ケアを行うなど、清潔保持している。又、歯科医による勉強会に随時参加し、口腔ケアの勉強をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご本人の訴えはもちろん、仕草などから把握し、決められたトイレ誘導ではなく、その人に合わせたトイレ誘導を行なっている。そのことによってオムツがはずせたりする事も多い。 | 個々の時間帯と表情などから把握し、トイレ誘導をされ、日中はトイレでの排泄に努め、立位、座位をする事で機能維持に繋がられる。又、今までの習慣を活かす事と共に気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況を随時確認して記録に残すとともに、きなこ牛乳や杜仲茶をお出ししたりオリゴ糖をまぜたりと飲食物の工夫や、日常的な運動などを行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者さんのペースに合わせて急かせず、本人の動きにあわせて行っている。又、最も多い希望時間が夜間だったので、生活歴にあわせ夜間入浴を行っている。夜間入浴を行うことにより、疲労や体が温められた事による安眠への誘導など、様々な効果がみられる。また、ご希望や長く施設入居されていた方などに合わせ、昼にも入浴を行っている | 回数や時間帯等は決められているが、希望があればいつでも入浴できる体制である。時間帯も午後3時から、個々の希望の時間に入浴してもらう事で生活習慣を活かし、夜間入浴にも、柔軟に対応し、入浴が楽しみとなる支援を心掛けている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 音が聞こえなかったり電気を消すと寝付けない人、本を読む習慣のある人など、生活歴や生活習慣を把握し対応したり、昼間と夜間の相関関係を分析し、安眠に心がけている。また、いたるところに腰をかけられるポイントを作り、休めるようにしている。さらに昼寝の時間を設けたり、身体が重くでなかなか外出ができない人でも外気浴を行い、日光を浴びることで昼夜逆転を防いでいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師からの意見や薬の情報を職員が理解している。また、記録を2通り残し、薬情報をファイルとして複数の職員が目を通せるようにしている。また、薬箱にも薬の内容と効果を記載して周知徹底を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 絵画や生け花等、昔からの趣味を把握して、日々の生活の中でそれが行えるよう支援し、それを事業所内で掲示・飾る等を行い、訪れた様々な方より評価頂いた事をお伝えし、やりがいにつなげたり、公民館で個展を開かせて頂く等インフォーマルサービスも活用しながら、より大きな | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍ではあるが、感染防止に気をつけながらも、買い物等の他、季節を感じられるような外出(花見、紅葉など)や、その人の趣味に合わせた外出も行っている。 | コロナ禍ではあるが感染予防を徹底し、四季ごとの外出(初詣、お花見、紅葉狩り)等に出かけ季節を感じてもらおうと共に五感刺激、気分転換、楽しみごとの支援に努めている。希望で買い物にも行く事もある。室内行事も多く持ち笑顔になってもらえるよう取り組まれている。個々の趣味も活かせる支援もされ楽しく過ごしてもらえるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人ひとりの希望や力に応じて、お小遣い帳の管理や計算を一緒にしている。また、困難な方でも支払いのときにスタッフが付き添いお金をお渡しして頂いたりしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人が電話を気軽にできるよう支援するのはもちろん、状況に応じて適した介助(番号を押すなど)も行っている。手紙は必要に応じて準備や投函の支援も行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 民家改修型であり可能なぎり引き戸にして昔ながらの生活様式を生かしている。また、至る所に消臭芳香剤を取り付け、心地よい香りを空間全体に広げている。季節を「目」で認識していただくために、季節に合わせた飾り付けを行っている。 | 玄関には利用者の笑顔の写真や行事の写真が飾られている。また、利用者の作品の絵画や季節の装飾品も壁に貼られている。共有の場は民家改造という事もあり、昔の面影も感じられ落ちついて過ごせる空間である。食事準備の音や匂いが五感刺激となると共に家庭的である。不快な匂いや死角もなく落ちついて過ごせる空間である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースで、こたげ、雑談等のできる空間や、一人でいたい居間に籠るのは寂しいという時に一人になれながら人の声が聞こえてきて寂しくない空間として「セミパブリックルーム」を設け、一人でゆっくりしたいときや仲の良い入居者さん同士で話したりしたい時に、自然と利用していただいている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の使い慣れた、使っていた箸、湯のみ、コップ等持ち込んでいる。服、アルバム、裁縫道具、絵画、楽器、棚等。またお部屋は基本的に施設の設備はせず、入居者さんの私物を沢山持ってきていただくことで、そのお部屋が「自分の部屋」になれるよう工夫している。 | テレビ、タンス、収納ケース等馴染みの物がたくさん持ち込まれている。また、思い出の写真もあり、加湿器も置かれている。出来るだけ自宅に近い環境づくりをされ、違和感なく落ちついて過ごせるよう工夫されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりやスロープを取り付け、つまずきやふらつきからの転倒を環境面からも防いでいる。 | | |

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

| 項目 | | 取り組みの成果(該当するものに○印) | | 項目 | | 取り組みの成果(該当するものに○印) | |
|----|---------------------------------------|--------------------|--------------|----|---|--------------------|--------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼすべての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼすべての家族と |
| | | | ②利用者の2/3くらい | | | | ②家族の2/3くらい |
| | | | ③利用者の1/3くらい | | | | ③家族の1/3くらい |
| | | | ④ほとんど掴んでいない | | | | ④ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に一度程度ある | | | | ②数日に1回 |
| | | | ③たまにある | | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 66 | 職員は生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 60 | 利用者は戸外の行きたい所へでかけている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 67 | 職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | | | | |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | |
| | | | ④ほとんどない | | | | |

(別紙4(2))

事業所名: グループホームオリーブハウス因島

目標達成計画

作成日: 令和 4 年 5 月 2 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|--------|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 49 | 入居者様から「旅行に行ってみたい」と言われていたが、コロナ禍の中、なかなか旅行に行けなかった。 | 旅行に行く。 | ご家族様への了承や打ち合わせ、旅行会社との打ち合わせ、場所の選定、先方でのコロナ対策等。 | 1年 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。